

# 運動文化研究

## 38

2021 Vol.38

### 主要目次

【巻頭言】新型コロナ禍での体育健康教育と同志会の学習集団論の成果について学ぼう 制野俊弘

### 特集1 同志会のグループ学習における成果と課題

【論考】出原泰明の「体育の学習集団論」から学ぶ  
「みんながうまくなることを教える」体育の授業づくり 伊藤嘉人

【論考】学校体育研究同志会のグループ学習における成果と課題 大貫耕一

【実践記録】クラスで勉強して、よく考えたら 近藤ひづる

### 特集2 コロナ禍の下での体育・健康教育実践の模索

【論考】シンポジウム：コロナを通して見えてきた学校・教育の課題 制野俊弘

【論考】生活・からだ・社会と向き合いながら主体としての力を育む「からだの学習」を  
鎌田克信・数見隆生・渡辺孝之

【実践記録】ぼくはゲームの王子様 東畑 優

【実践記録】コロナ禍で子どもたちとともにゼロから創り上げた運動会 岨 賢二

【実践記録】健康教育実践「新型コロナウイルス感染症とパンデミック」 斎藤治俊・後藤 静

2020中間集会・学校体育研究同志会全国研究大会(広島)ならびに第160回全国研究大会(冬大会)まとめ 制野俊弘

#### 【冬大会分科会報告】

障害児の「遊びづくり」の提案 まとめ 小山紗知

『わかる』『できる』を通して結びつく集団 加登本 仁・玉腰和典

「出原②・教科内容論『体育は何を教える教科か』の探究」報告 黒川哲也

中学校での「からだの学習」としての「持久走・長距離走の授業」の提案 岡崎太郎

## 学校体育研究同志会研究年報

## The Opening Article

Learn about the results of physical education and health education in COVID-19 and the learning group theory of Gakkou-taiiku-kenkyu-Doushikai.

Seino, T

## Special Theme I: Achievements and Challenges in Group Learning of Gakkou-taiiku-kenkyu-Doushikai.

A study on the learning group in Physical Education classes being advocated by IZUHARA Yoshiaki: A focus on Physical Education lesson for everyone

Ito, Y

Accomplishments and issues in group learning of Gakkou-taiiku-kenkyu-Doushikai: Focusing on the research in the group Learning subcommittee.

Oonuki, K

If I study in class and think carefully: third grade elementary school, holding volleyball practice.

Kondo, H

## Special Theme II: Seeking for Physical Education and Health Education Practices Under COVID-19.

Symposium: School / Education Issues Revealed Through COVIT-19.

Seino, T

“Learning the body” that nurtures the power as a subject while facing life, body, and society; Study of teaching materials for COVID-19 and lesson plan in the upper grades of elementary school.

Kamada, K & Kazumi, T & Watanabe, T

I am the prince of the game : Learning flying discs in the second grade of elementary school.

Higashibatake, Y

A field day created from scratch with Elementary school children under COVID-19.

Sowa, K

Health education practice “COVID-19 and pandemic” at high school.

Saito, H & Shizuka, G

## 巻 頭 言

# 新型コロナ禍での体育健康教育と 同志会の学習集団論の成果について学ぼう

制野俊弘  
(和光大学)

### 激増した子どもの自殺

2020年に自殺した児童生徒は、前年度から140人、率にして41.3%増の479人となり、過去最高を記録した。中でも女子高校生は前年の約2倍の138人となっており、文科省が詳細な分析を始めた。(毎日新聞 2021年2月15日)。

また、特筆すべきは学校が再開した6月の数字である。5月までは例年とほぼ同数で推移していたが、6月は45人で前年の21人から大幅増となった。学校再開とほぼ同時に急増した事実を、私たちはどう受け止めればいいのか。

文科省の分析では、自殺の原因・動機は「進路に関する悩み」(55人)や「学業不振」(52人)が上位を占め、前年比で大幅に増えている。一方、「家庭からのしつけ・叱責」や「その他学友との不和」はいずれも26人と前年と同数に止まっている。

文科省は、児童生徒の自殺予防について、「18歳以下の自殺は、学校の長期休業明けにかけて増加する傾向がある。特に、新型コロナウイルス感染症に伴う長期にわたる学校の休業においては、通常の長期休業とは異なり、教育活動の再開の時期が不確定であることなどから、児童生徒の心が不安定になることが見込まれる。」と述べている(文科省「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状について」より)。

これでは「教育活動の再開の時期が不確定」であることが原因ではないかと理解されてしまう。そうではなく、学校再開そのものが不安材料だったのではないか。日本の学校・教育そのものが子どもを死に追い込んでいるのではないか—これは根拠のない推論であろうか。文科省がこの問題の原因と所轄の本丸である「学校」との関連を明確にすることを期待したい。

### 「学習集団論」の現代的意義

ここまで長々と数字を追いかけるのは、実につらい作業である。それぞれの人生に歴史があったはずであり、それは唯一無二の物語として、続編が編まれるはずだった。「学校」というまさに私たちの足元から子どもが黄泉の国に旅立つ事実を忘れてはいけぬ。

その上で体育や健康教育は何ができるのか—「三密を避ける」という極めて異常な事態で、同志会の「学習集団論」はいかなる可能性をもつのかを述べよ、というのが編集部からの依頼である。

同志会の「学習集団論」は、「仲良くなる」ことを直接的な目的としたり、「学ぶ内容なし」の雰囲気や気分による集団の結びつきからの脱却を模索してきた。例えば、出原泰明氏は体育の授業における「感情的一体感」の危険性について、竹内常一氏の言葉を引用しながら次のように述べている(「体育の学習集団論」明治図書 1986年)。

## 〔巻頭言〕 新型コロナ禍での体育健康教育と同志会の学習集団論の成果について学ぼう (制野俊弘)

「まさに子どもが主体とならず、また主体として他者との交流を豊かにしていく手だてを持たない活動における『団結』や『友情』、『涙』や『汗』は、ファシズムに通ずるような『感情の一体感』なのであり、それを私たちはけっして人間的感動ととり違えることはできない。集団が創り出すトーンの質とそのなかでの一人ひとりの子どもの感動の質を吟味しなければならない。」(p.95)

同志会はこれらの誘惑に打ち克つために、子ども同士が結びつくための技術的・認知的内容の問題を重視してきた。感動の質はこの質によって規定されると捉えてきた。特に、「わかる」ことで結びつく集団づくりは同志会の「学習集団論」の大きな柱であり、その後の出原氏の教科内容研究の主張につながっていく。

また、子どもの主体性と自治を保障するためのグループ学習を「民主主義の学校」と位置づけ、学習内容や教材をめぐる葛藤や摩擦を意図的に含み込ませ、運動文化に関する「歴史的な問い」の中で動揺・分裂・分岐を繰り返しながら、民主主義を学びきらせる学習を展開してきた。

したがって、文科省がいかに「アクティブ・ラーニング」を唱道しようと、同志会の「学習集団論」はビクともしない。その証拠に同志会の実践が、現代教育学においても高評価を受けている(西岡加名恵「資質・能力を育てるパフォーマンス評価」明治図書 2016年)。

### 「学習集団論」の普遍性

同志会の「学習集団論」は、コロナ禍で一層真価を発揮する。「わかる」ことを接着剤に「できる」ことを実体化し、同時に「つながる」ことを可視化していく—これは子どもにとっての「救い」である。

石井英真氏(京都大学)の、「戦後教育学のモチーフであった科学と民主主義のテーゼを再評価し、知性と公共性の内在的な結合としてとらえなおすことで、市民的知性と熟議民主主義に接続する系統学習のヴィジョンが描けるだろう」(「戦後日本教育方法論史・上」p.125)という指摘は、同志会が考える「学習集団論」や「グループ学習論」、運動文化の民主的・創造的發展を支える主体者形成への道のりと重なり合っていると、私は考えている。

しかし、自省の念を込めて言えば、同志会の「学習集団論」や「グループ学習論」を実践者が固定的で、スタティック(静的)なものとして構想することは、先達たちの本意ではない。このようにとらえることは危険であり、硬直化の誹りを免れない。これらは、あくまで原則的な立場の表明であり、骨格部分である。方法や様態=肉のつき方は種々考えられていい。

その意味で「べき論」を厳しく自戒しながら、より幅広の実践形態を許容するフレキシブルな姿勢が求められるし、先達たちの度量の広さが同志会の広い裾野を形成してきた事実をもう一度想起すべきである。20代と50代の教員が主力を担っている今、「学習集団論」の意義と価値を後世に引き継ぐ絶好のチャンスであることも、忘れてはならない。

2020冬大会で学び直した出原氏の「学習集団論」は、教育における能力主義へ徹底抗戦の構えから生み出され、鍛え上げられた。ある若手教師は、雰囲気や気分による集団の結びつきや、子どもの楽しそうな様子に満足してきたことに気づいたという。「楽しさの中身」よりも「楽しくやっている子どもの笑顔」に誤魔化されていたという。これは教師がよく陥る罠である。

過去の経験に学びつつ、未来に向けてより豊かで創造的・実験的实践が求められる。「学習集団論」は、コロナ禍という霧中の水先案内人の役割を果たしてくれるはずである。

## 目次

巻頭言：新型コロナ禍での体育健康教育と同志会の学習集団論の成果について学ぼう（制野俊弘）..... 3

### 特集1 同志会のグループ学習における成果と課題

論考：出原泰明の「体育の学習集団論」から学ぶ「みんながうまくなることを教える」 体育の授業づくり（伊藤嘉人）.....	6
論考：学校体育研究同志会のグループ学習における成果と課題 ーグループ学習分科会における研究を中心にー（大貫耕一）.....	14
実践記録：クラスで勉強して、よく考えたら ー小3ホールディングバレーボール実践ー（近藤ひづる）.....	25

### 特集2 コロナ禍の下での体育・健康教育実践の模索

論考：シンポジウム：コロナを通して見えてきた学校・教育の課題（制野俊弘）.....	36
論考：生活・からだ・社会と向き合いながら主体としての力を育む「からだの学習」を ー新型コロナウイルス感染症の教材研究と小学校高学年での授業プランー（鎌田克信・数見隆生・渡辺孝之）.....	45
実践記録：ぼくはゲームの王子様 ー臨時休校明け、フライングディスクの学習（小2）ー（東畑 優）.....	56
実践記録：コロナ禍で子どもたちとともにゼロから創り上げた運動会（岨 賢二）.....	66
実践記録：健康教育実践「新型コロナウイルス感染症とパンデミック」（斎藤治俊・後藤 静）.....	78

2020中間集会・学校体育研究同志会全国研究大会（広島）ならびに 第160回全国研究大会（冬大会）まとめ（制野俊弘）.....	85
--	----

### 冬大会分科会報告

障害児の「遊びづくり」の提案 まとめ（小山紗知）.....	87
『わかる』『できる』を通して結びつく集団（加登本 仁・玉腰和典）.....	91
「出原②・教科内容論『体育は何を教える教科か』の探究」報告（黒川哲也）.....	96
中学校での「からだの学習」としての「持久走・長距離走の授業」の提案（岡崎太郎）.....	101

学校再開にあたって体育で何を大切にすべきか 体育の授業づくりに対する提言 （学校体育研究同志会全国常任委員会）.....	108
---	-----

日本学術会議の会員任命拒否の撤回と学問・研究の自由を求める声明 （学校体育研究同志会全国常任委員会）.....	110
--	-----

「たのしい体育・スポーツ」発行状況（2020年夏号～2021年春号） （たのしい体育・スポーツ編集委員会）.....	111
---	-----

2019年度（2019/08～2020/07） 学校体育研究同志会決算報告（全国事務局）.....	114
---	-----

編集後記／奥付.....	115
--------------	-----